

# 視覚動作を表わす表現の日中対照（3）

—「見る」、「読む」、「会う」に対応する中国語の表現—

## A Contrastive Study of Seeing-Related Actions Expressions in Japanese and Chinese(3): The “見る”, “読む”, “会う” Forms in Japanese and Their Corresponding Expressions in Chinese

成戸 浩嗣 Koji NARUTO

### 概 要

日本語の「読む」、「会う」に対しては一般に、それぞれ“看”、“見”という中国語の成分が対応するとされる。しかし、成戸 2001: 166-167、同 2004a、同 2004b: 76-80、同 2007 で述べたように、“看”、“見”以外にも“看见”、“看到”、“见到”のような視覚動作を表わす諸成分が、「見る(見かける、見つける)」などの視覚動作にとどまらず、「読む」あるいは「会う」という動作をともなうことをも含意するケースが存在する。これらのことから、日本語においては「見る」、「読む」、「会う」という異なる動詞により相互に別個の動作として表わされる出来事が、中国語においては、視覚動作を表わす諸成分により表わされる連続した一つの領域をなしていることがうかがわれる。但し、日本語の「見る」も、場合によっては「読む」動作を表わすことが可能である。また、「(ヒト)に会う」という動作は、「(ヒト／ヒトの姿)を見かける」動作との区別が、表現の前提となる客観的事実においてすら必ずしも明確ではないケースが存在する。このため、日本語の「読む」、「会う」も、上記の中国語諸成分の場合とは異なる形で、視覚動作を表わす「見る」、「見かける」、「見つける」などとの間に連続性を有していると推察され、これらをもふまえた上で中国語諸成分との対応関係について考察を行なう必要があると考えられる。

本稿は、「見る(見かける、見つける)」、「読む」、「会う」とこれらに対応する視覚動作を表わす中国語諸成分とを比較することによって、日中各成分の働きを従来よりも正確に記述するとともに、同一の動作が両言語においてそれぞれどのように表現されているかの相違、対応関係が成立する要因について明らかにすることを目的とする。

なお、本稿においては、“看到”、“看见”の使い分けについて論じた成戸 2001、“見”、“见到”の使い分けについて論じた同 2004a、“見”、“看到”、“看见”の使い分けについて論じた同 2004b、“看到”、“见到”の使い分けについて論じた同 2005 および同 2006、“看到＋ヒト”、“见到＋ヒト”の使い分けについて論じた同 2007、「見つける／見つかる」、「見かける」とそれに対応する中国語の表現について論じた同 2009 a の結論をふまえて考察をすすめることとする。

### キーワード

視覚動作	seeing-related actions
非視覚動作	non- seeing-related actions
連続性	continuity
方向性	direction
対応関係	correspondence

### 目 次

- 1 「見る」、「読む」とそれに対応する中国語の表現
- 1.1 「見る」と「読む」

- 1.2 「見る」、「読む」に対応する中国語の表現
- 2 「見る／見かける」、「会う」とそれに対応する中国語の表現
  - 2.1 「見る／見かける」と「会う」
  - 2.2 中国語諸成分にみられる「見る」動作、「会う」動作の連続性
  - 2.3 「(ヒト)ニ／ト会う」に対応する中国語の表現
- 3 まとめ

## 1 「見る」、「読む」とそれに対応する中国語の表現

### 1.1 「見る」と「読む」

日本語においては、「見る」が「読む」とほぼ同義で用いられるケースがみられ、「雑誌を見る」、「新聞を見る」などの表現が成立する。以下の表現例においては、「読む」、「見る」が共起し、相互に置き換えることも可能である。

- (1) わたしは夜ざっしを読んで、朝、新聞を見る。  
(『外国人のための 基本語用例辞典』「みる」の項)

(1)においては「読む」、「見る」間に明確な相違は見いだせないものの、これによって両者が全く同義であるとするのが妥当でないのは言うまでもない。佐治 1992 : 166 は、「本をみる」の「みる」は

- イ. ながめる
- ロ. 内容を(軽く)読む

を表わすという『新明解国語辞典(「みる」の項)』の記述を紹介した上で、

- (2) 友達の手紙を見てから(読んでから)、返事の手紙を書きました。

は、「友達の手紙の来たことを確認してから」といった意味でなら「見てから」でよいが、「内容までしっかり確かめてから」の意なら「読んでから」にしないといけない、としている。また、同 : 166-167 は

- (3) 私は毎晩「北京晩報」を見ます(読みます)。

の場合、「北京晩報」で天気予報を見たり、大見出しや写真だけ見たりするのなら「見ます」でよいとする一方、「本を見る」はことばの表現としてはありうる

もので、それだけでは誤用とはいえず、例えば本屋へ行って「(棚に並べてある)本を見る」こともあるし、「本を(ちょっと手に取って)見る」こともあるが、

- (4) 午後、私は図書館で本を見ました。

のように「午後」、「図書館で」という文脈においては誤用と言わざるを得ず、「本を読みました」としななければならない、としている。佐治の記述からは、客体映像を表面的にとらえる動作を表わす場合、すなわち新聞や本をモノとして目にする場合や、それらに記載されている文字や絵図からおおまかに情報を得ようとする場合には「見る」が用いられるのに対し、新聞や本に書かれた文字や文章すなわち文字媒体から詳細に情報を読みとろうとする動作を表わす場合には「読む」が用いられるということがうかがわれる。佐治が(4)を「見る」の誤用とするのは、表現内容から明らかに「読書する」ことを表わしているためであると考えられるが、日常的な話し言葉においては(4)を用いることも可能である。この点は(2)も同様であり、「見てから」は「読んでから」の意味に解することが可能である。

このように、文字媒体に目を通す動作を表わす場合には、「読む」の意味領域に入り込んだ「見る」の用例がみられる。これに対し、例えば

- (5) アルバムを見る。  
(『日本語 基本動詞用法辞典』「みる」の項)
- (6) 映画を見る。(同上)

の場合には、

- (7) チラシ／広告を見る。

とは異なり、文字ではなく映像が客体となっているため、「見る」を「読む」に置き換えることはできない。但し、文字が客体となっても、例えば

- (8) むずかしい本の細かい字を見ているとねむくなる。(『外国人のための楽しい日本語辞典』「みる」の項)

のような表現の場合には、実際には「読む」動作を行なっているものの、「ねむくなる」の直接の原因が、本の内容の難しさではなく細かい文字を見ていることであるため、「見る」が用いられることとなる。同様の例としては、佐治 1992 が述べている以下のようなケースが挙げられる。すなわち同：166 は、日本語の「みる」は、「視覚でとらえる」と言ったほどの意味で、「文字に表わされた内容を理解しながらたどる」という意の「読む」<sup>1)</sup>とは違うのであって、例えば、習ったこともないような外国語の文字で書かれている本は、「見る」ことはできても「読む」ことはできないのである、としている。

成戸 2004b : 76 で述べたように、「見る」は客体の姿を表面的にとらえる動作であるのに対し、「読む」は客体の姿を表面的にとらえるにとどまらず、文字によって表わされた内容を理解する動作であり、後者の方が、客体に対して動作がおよぶというニュアンスが強く、客体への動作の方向性がより強い。また、森田 1977 : 157 は、「読む」は言語行動の一環としての理解行為であり、表現行為「書く」に対するものであるとしている<sup>2)</sup>。「読む」は理解行為であるため、前述したように「見る」と比較した場合には文字媒体から詳細に情報を読みとろうとする動作としての性格が際立つ一方、客体が文字ではなく絵や図などの非文字媒体であってもそこから一定の情報を得ようとする場合には、「見る」だけでなく「読む」も用いられる<sup>3)</sup>。このように、「見る」、「読む」を直接に比較した場合には、前者は視覚による表面的な映像把握の意味合いが強い動作としての、後者は視覚のみならず理性による内容理解をとともなう動作としての性格がうきぼりとなる。

しかし一方では、「見る」は視覚動作を表わす働きにとどまらず、「理解する、判断する」といういわば一種の心理動作を表わす働きに派生していく動詞でもある。田中 1996 : 122-123 には、「みる」が有する「理解・判断する」という意味は、「視覚によって対象を認知する」という基本義から派生したものであり、「理解」とは視覚による認知にとどまらず知的な働きにより対象の本質を把握すること、「判断」は評価も含む広い意味である旨の記述がみられる。「見る」のこのような働きは、「理解する、判断する」か

ら、さらに「調べる」という抽象的な行為を表わす働きにまで移行すると考えられる<sup>4)</sup>。例えば、(1)、(3)、(7)における「見る」は、いずれも客体から何らかの情報を読みとることを表わすため「読む」の意味領域に入ってきていると考えられるのに対し、

- (9) 専門書／辞書を見る。

(『日本語 基本動詞用法辞典』「みる」の項)

- (10) 生徒の作文／答案を見る。(同上)

における「見る」は、「理解する、判断する」という意味合いが強く、「調べる」の意味領域に入ってきていると考えられる<sup>5)</sup>。このように、視覚動作を表わすのが本来的な働きであった「見る」は、その派生的用法においては「読む」と同様に抽象的な理解行為を表わす成分としての性格を帯びることがある。但し、「読む」とは異なり言語活動の一環としての理解行為ではない。

## 1.2 「見る」、「読む」に対応する中国語の表現

周知のように、「読む」は「音読する」、「黙読する」のいずれを表わすことも可能な動詞であり、これに対応する中国語動詞としては、“看、念、读”などが挙げられる。これらのうち「黙読する(目で読む)」に限定して用いられるものは、視覚動作を表わす働きをも有する“看”である<sup>6)</sup>。このため、例えば

- (11) 近来忙得连看报纸的时间都没有。

(《中文版 日语句型辞典》「みる」の項)

のような“看”を用いた中国語表現に対しては、

- (11)’ このごろは忙しくて新聞を見るひまもない。

(同上)

- (11)” このごろは忙しくて新聞を読むひまもない。

のように「見る」、「読む」いずれを用いた日本語表現を対応させることも可能なケースが存在する<sup>7)</sup>。

成戸 2004b : 77 で述べたように、現代中国語においては、“看书”、“看报纸”のような“看”+名詞形式における“看”と名詞との意味上の関係が基本となって“看”の語義が「読む」に特定される。このことは、“看”が客体に対して意識的に視線を向ける動作であることと表裏一体であると考えられる。また、黄利恵子 2001 : 162 は、“看”が日本語の「見

る」と同様に「感覚・知覚・認知」という視覚的対象認識のほか、視覚にもとづいた理解・判断・処理などの拡張された意味をも有するとしており、この点も「読む」動作を表わす働きにつながっていると考えられる。日本語の「見る」、「読む」が、客体である本や新聞からおおまかに情報を得ようとする動作であるか、あるいはそれらに書かれた文字や文章内容から詳細に情報を読みとる動作であるかによって使い分けられる点については1.1で述べた通りであるが、中国語の「看」に対しては、このような使い分けをするためのペアとなる動詞が存在しない。但し、成戸2001:166-167で述べたように、「看」が“-到”、“-見”のいずれをとともなうかによって相違が生じる以下のようなケースがみられる。すなわち、“看到”を用いた

(12) 昨天我看到的一份杂志上说,现在以茶叶为出口商品的有二十多个国家。

(『中国語 中級コース』:10)

は“現在以茶叶为出口商品的有二十多个国家”という内容を雑誌で読んだことを表わすのに対し、“看见”を用いた

(12)’ \*昨天我看见的一份杂志上说,现在以茶叶为出口商品的有二十多个国家。

は「雑誌そのものを見た」ことを表わす表現であるため非文となる。このような相違は、成戸2001:158-160、同2004b:76で述べたように、“看到”は視覚によって映像をとらえるとともにその内容を理性によってとらえることを表わすのに対し、“看见”は視覚によって映像をとらえることを表わすにとどまるために生じるものである。上記のような“看到”、“看见”の相違は、一見したところ日本語の「読む」、「見る」のそれに近似している。しかし、1.1で述べたように、日本語の「見る」には視覚動詞としての本来の用法のほか、「読む」の意味領域に入り込んだ用法も存在するため、“看”を用いた(11)に対して「見る」を用いた(11)’、「読む」を用いた(11)”のいずれもが対応しえるのと同様に、“看到”を用いた(12)および

(13) 我在报上看到了有关他的报导。  
(《日语动词用法词典》「よむ」の項)

に対してもそれぞれ

(12)” 昨日私が見たある雑誌によれば、茶葉を輸出品としている国は現在二十カ国あまりあるとのことだ。

(12)”’ 昨日私が読んだある雑誌によれば、茶葉を輸出品としている国は現在二十カ国あまりあるとのことだ。

(13)’ 私は新聞で彼の記事を見た。

(13)” 私は新聞で彼の記事を読んだ。(《日语动词用法词典》「よむ」の項)

が対応しえる。

また、成戸2004b:77-78で述べたように、(12)における“看到”は、文字媒体が表わす内容を理解することを表わすと同時に「見つける」というニュアンスをも帯びている、すなわち“看到”が「探して見つけ、そして読んだ」という事実を前提としていることが感じられる点において日本語の「読む」とは異なる。これに対し、(13)における“看到”は、「たまたま／偶然に日にした」というニュアンスがあり、この点において『日本語 基本動詞用法辞典(「みつける」の項)』に挙げられている「見つける」の特徴の一つ、すなわち「何かを偶然見て知ってしまう」との間に共通点を有するということができよう。同様の例としてはさらに、

(14) ……我装作很有兴趣的样子,叫他把填的表拿来。他真的拿来,上面写着:我自愿脱离共产党。一看到这个我气坏了,你这个叛徒!

(陈国安《恍惚的人们》)

(15) 当他拿起第六份档案,看到陆文婷这个名字时,他感到有点累,也并不期待还能出现奇迹。

(谌容《人到中年》)

が挙げられる。(14)、(15)においても(12)の場合と同様に、“看到”が「見つける」というニュアンスを含んでいる。“看到”に対して「見つける」が対応するケースについては、成戸2009a:61-64において考察を行ない、“看到”に含まれる「見るに値する」という肯定的価値判断が「見つける」との間に意味的な相似点を有する点に対応関係成立の要因があるとしたが、このことは、“看到”表現が「読む」動作をとともなうコトガラを表わすケースについても同様

にあてはまることが、(12)～(15)から理解できよう。いうなれば“看到”は、肯定的価値判断を含んでいる点においては「見つける」との間に相似点を有する一方、内容理解をとまなう点においては「読む」との間に、視覚による映像把握を表わす点においては「見る」との間にそれぞれ共通点を有しているのである。但し、成戸 2004b : 77 で述べたように、(14)は“他”が持って来た“表”に“我自愿脱离共产党”と書かれているのが目にとまった”ことを、(15)は“他”が“第六份档案”を手にしたところ、“陆文婷”の名前が目に飛び込んできたことをそれぞれ表わしている。いずれの場合も短時間に客体を目にしたことを表わしており、客体自身は文字媒体であるものの、そこからまともった内容の情報を読み取る動作ではないため、“看到”に対して「読む」を対応させることは妥当ではないと考えられる。

“看到”は、前述したように内容理解をとまなう動作を表わすことによって「読む」に対応するケースが存在するものの、「読む」とは異なり文字媒体を客体とする場合にその用法が限定されているわけではない。“看”と同様に“看到”も、日本語において「見る」、「読む」いずれによって表現される動作を表わすことも可能である。このことを端的に表わしているのが

(16) 不，谈不到感兴趣，不过是看到一些自己觉得新奇的，就想问一问。

(《日語口譯教程》：260)

であり、“看到”は「(主体が自分の目で)見る」、「(本などで)読む」のいずれに解することも可能である<sup>8)</sup>。

ところで、(12)、(12)’間におけると同様の相違は、例えば

(17) 看到这信，她不由得哭了起来。

(17)’ ? 看见这信，她不由得哭了起来。

についてもあてはまる。すなわち成戸 2004b : 76 で述べたように、(17)の“看到这信”は「この手紙を読んだ」の意味に、(17)’の“看见这信”は、不自然ながらも「この手紙を見た」の意味にそれぞれ解され、いずれも話し言葉的な表現である。これに対し、純然たる書き言葉な表現である

(17)” 见此信，泣不止。

における“见此信”は「この手紙を読んだ」、「この手紙を見た」いずれの意味に解することも可能である。このように、話し言葉において“看到”、“看见”の使い分けが存在するのは異なり、書き言葉における“见”には「読む」、「見る」間の形式上の区別が存在しない。一方、成戸 2004a : 309 で述べたように、現代中国語には、“见”が純粋な視覚動作ではなく一種の心理動作を表わす

(18) 老新见她闹了，又不知怎样转了一个念头，把枪口向上，对准了正在暗中睁大两只绿幽幽眼睛的猫儿。(《日汉互译教程》：160)

のようなケースが存在し<sup>9)</sup>、“见”は、“老新”が視覚とともに理性によって“她不闹了”という状況を読みとったことを表わす。但し、成戸 2004a : 315、同 2004b : 75 で述べたように、“见”は客体から主体への空間的単方向性を有する成分であり、客体に対して積極的に働きかける動作を表わすことはないため、文字媒体から情報を読みとることを表わす“看”、“看到”のような働きをすることはなく<sup>10)</sup>、「読む」との対応関係も成立しない。“见”が有するこれらの特徴は、1.1 で紹介した田中 1996 が「見る」の派生義として位置づけている「理解・判断する」とは意味の上で相通じる反面、「ヲ」格をとるため客体に対する空間的方向性を有することとなる「見る」とは異なる。

“见”とは異なり“见到”の場合には、成戸 2004a : 300-303、同 2005 : 62-63、同 2006 : 97 で述べたように、主体から客体への空間的方向性を有する点、客体映像を視覚によってとらえることを表わす点においては“看到”と共通するものの、理性によって客体映像から一定の情報を読みとる働きは有しないため、「読む」との対応関係は成立しないと考えられる。

## 2 「見る／見かける」、「会う」とそれに対応する中国語の表現

### 2.1 「見る／見かける」と「会う」

日本語の「見る／見かける」と「会う」は、いずれも視覚をとまなう動作である点において共通する一方、前者は「(ヒト／ヒトの姿)ヲ見る／見かける」の形式をとることからも明白なように、「ヲ」で示

される客体に向けての主体の視線を支えとした単方向動作である<sup>11)</sup>のに対し、後者は主体と「ニ／ト」で示される相手との間における双方向動作であるという相違がみられる。

佐治 1992 : 167 は、「見る」と「会う」の相違について、

(19) 彼を見た。

という場合には、「彼に声もかけず、話もしなかった」こととなるのに対し、話をしたり、話をしなくてもお互いにうなずき合ったりして、確認しあっている場合には、「会った」あるいは「出会った」という言い方をしなければならないとしている。(19)は

(19)' 彼(の姿)を見た／見かけた。

の場合と同様の客観的事実を前提とし、

(20) 洋子は私の顔をじっと見た。

(『日本語 基本動詞用法辞典』「みる」の項)

と同じくヒトの外見を視覚によってとらえたことを表わす。「見かける」は、成戸 2009 a : 71 で述べたように、その意味特徴として

- ① 無意志の動作を表わす
- ② 視覚によって客体映像を表面的にとらえることを表わす
- ③ 視覚によって客体映像を短時間にとらえることを表わす

が挙げられ、「見る」に一定の意味が加わった視覚動作を表わす成分である。一方、森田 1984 : 1 は、「あう(合う、会う)」はもともと無関係であった二者が状況の変化によって互いが関係を持つ状態となることであり、

- イ. 目的意志を持って行った結果そうなる場合
- ロ. たまたまそのような状態にある場合

がある<sup>12)</sup>としている。また、同 1977 : 4-5 には、「会う」は「出会う」で、(コトガラに関わる)二者の前面が互いに見える角度で距離的に接近し、相手もしくは対象を認知することが必須条件であり、いくら

接近しても無関係な者どうしのときは「会う」とはいわない旨の記述がみられる。

これらのことから、「会う」が表わす概念は、相手を認知するという視覚動作としての側面のほか、相手と互いに接触・交流をもつなど非視覚動作としての側面をも有する点において抽象性が高く、視覚動作を表わすにとどまる「見る／見かける」とは異なることが理解できよう。

ところで、『日・中・英 言語文化事典(「あう[会う・合う]」の項)』は、「(ヒト)ニ会う」と「(ヒト)ト会う」とでは、後者に「たがい」の意味が含まれる点で異なるとしている。「ニ」はいわゆる「ゆくさきのむすびつき」や「くつつきのむすびつき」をとる名詞と動詞との組み合わせ<sup>13)</sup>において「ゆくさき」や「くつつきさき」を示す働きをする成分でもあり、そのような組み合わせにおいては動作が「ゆくさき」や「くつつきさき」に向けての単方向性を有することとなる。このため、「(ヒト)ニ会う」と「(ヒト)ト会う」を比較した場合には、いずれにおいても「会う」自体は主体とその相手との双方向動作を表わすものの、単方向動作を表わすのに用いることが可能な「ニ」を用いた前者に比べ、「ト」を用いた後者の方が「会う」の双方向性が相対的に際立つこととなると考えられる。「ニ」、「ト」の置き換えが可能なケースについて、森田 1980 : 374-375 は、「ニ」が人間を表わす語についた場合の最も一般的な用法は行為の対象(本稿でいう「相手」)を表わすことであるが、その中には「彼ニ伝える」、「彼ニ質問する」のような、「へ」の発想に近い、「彼」に対する動作者の一方的行為の他動詞が立つ場合と、「彼ニ約束する」、「彼ニ話す」のような、「ト」との入れ替えが可能な、相手方の協調を期待する動作動詞が立つ場合があるとしており、「(ヒト)ニ会う」は後者に属すると考えられる<sup>14)</sup>。但し、「ニ」、「ト」が相互に置き換え可能な場合であっても、上記のように後者を用いる方が双方向動作であることが際立つこととなり、このことは、寺村、森田における以下のような記述とも符合する。すなわち、寺村 1982 : 95-96 には、「ニ会う」の場合には相手がじっとしていて主体が動いて行って相手と相対することを表わすのに対し、「ト会う」の場合には主体と相手とがお互いに相対することを表わす旨の記述がみられ、森田 1980 : 329, 375 も「彼ニ約束する／話す／相談する」のような例によって、「ニ」を用いると一方的働きかけの意識が強まり、「ト」を用いると相互行為とな

るとしている<sup>15)</sup>。「ニ会う」、「ト会う」間におけるこのような相違は、例えば

(21) 私は彼ニ会いに行く。

(21)' 私は彼ト会いに行く。

において一層鮮明にあらわれる。すなわち、(21)における「会う」は「行く」と同様に「私」が単独で行なう動作であるというニュアンスが強いのにに対し、(21)' は、「彼と会うために行く」ことのほか、「彼と一緒に(誰かに)会いに行く」ことを表わす表現に解することも可能である<sup>16)</sup>。

## 2.2 中国語諸成分にみられる「見る」動作、「会う」動作の連続性

日本語において「(ヒト／ヒトの姿)ヲ見る／見かける」、「(ヒト)ニ会う」によって表わされる動作が、視覚動作を表わす中国語諸成分によってどのように表現されるかについては、成戸 2001、同 2004a、同 2004b、同 2007、同 2009 a において考察を行なった。本節ではこれらの考察結果をふまえ、「(ヒト／ヒトの姿)ヲ見る／見かける」、「(ヒト)ニ会う」の使い分けと中国語諸成分の使い分けとの間にみられる相違、日中両言語間に対応関係が成立する要因について考察を行なう。

成戸 2009 a : 71 で述べたように、2.1 で挙げた「見かける」の意味特徴①～③をすべて備えているのは“看见”であり、他の中国語諸成分に比べると「見かける」に最も近い性格を有すると考えられ、例えば

(22) 昨天我看见他了。

(『岩波中国語辞典』“看见”の項)

(22)' 昨日ぼくはあの人の姿を見かけた。(同上)

のような対応関係が成立する。“看见”に対してはこのほか、「見る」を対応させた

(23) 昨天我在街上看见他了。(荒川 1984 : 7)

(23)' 昨日私は町で彼を見た。(同上)

のような例も存在する。成戸 2001 : 167、同 2004b : 78、同 2007 : 44 で述べたように、“看到”は「見る／見かける」、「会う」いずれの動作を表わすことも可能であるのに対し、“看见”は「見る／見かける」動作を表わす形式としての性格が強く、(22)と

(22)" 昨天我看到他了。

を直接に比較すると、前者は「見た／見かけた」の意味が、後者は「会った」の意味がそれぞれ強いという相違がみられる。“看见”に対して「会う」を対応させた

(24) 看见过他。(興水 1980 : 53)

(24)' かれに会ったことがある。(同上)

のような例も存在しないではないものの、“看见”は客体の姿を視覚によって表面的にとらえるという意味合いが強く、主体から客体への単方向性を有する動作であるため、非視覚動作としての性格をも有する双方向的な「会う」とは対応しにくいのである<sup>17)</sup>。

“看见”の場合と同様に、“看到”に対しても、例えば

(25) 昨天我在车站看到了小王。

(25)' 昨日私は駅で王さんを見かけた。

のように「見かける」が対応するケースが存在する<sup>18)</sup>。成戸 2009 a : 72-73 で述べたように、客体映像を表面的にとらえることを表わす点においては、“看见”の方が“看到”に比べて「見かける」により近い性格を有し、

(25)" 昨天我在车站看见了小王。

のような表現も成立する反面、客体映像を瞬間的にとらえたことを表わす(=客体映像の把握を時間軸上の点として表現する)場合における適合性の点においては、“看到”の方が“看见”よりも優位にあり、短時間の動作を表わす「見かける」により近い性格を有するためである。“看到”表現の中にはこのほか、(22)と比較した(22)"のように「会う」の意味が強く感じられるケースも存在するが、成戸 2007 : 50 で述べたように、“看到”が表わすのは客体への単方向動作としての「会う」であり、“见到”が表わす主体・客体間の双方向動作としてのそれとは異なる。このことは具体的には、成戸 2007 : 45-46、50 で述べたように、(25)は「王さんの姿を見たが声をかけなかった」のほか「王さんの姿を見てちょっと声をかけた」という場面が想定されるのに対し、

(25) ”’ 昨天我在车站见到了小王。

は「王さんの姿を見た」のほか「王さんと話をした」という場面が想定されるという相違となつてあらわれる。成戸 2007: 50 で述べたように、話し言葉においては、「看到」は「見る」、「会う」いずれの動作を表わす場合に用いることも可能であるのに対し、「见到」は「会う」動作を表わす場合に用いられるにとどまるが、同じく「会う」動作を表わす場合においても両者の間には方向性の点で上記のような相違がみられるのである。「看到」、「见到」におけるこのような相違は、「看」が主体から客体への単方向動作としての「会う」を、「見」が主体・客体間の双方向動作としての「会う」をそれぞれ表わすという、成戸 2004a: 305-306 で述べたことに起因する<sup>19)</sup>。

ところで、成戸 2004b: 78-79 で述べたように、「見」の意義範疇においては「見る」と「会う」が連続的な関係にあるものの、話し言葉において「会う」動作を表わす場合には主として「見」が用いられ、「見る」動作を表わす場合には「看到」、「看见」が用いられる傾向が存在する。このため、成戸 2007: 47 で述べたように、「见到」、「見」は、「会う」動作を表わす場合には話し言葉的な成分としての性格を、「見る」動作を表わす場合には書き言葉的な成分としての性格を帯びることとなる<sup>20)</sup>。成戸 2004a: 317、319-320 で述べたように、「见到」、「見」間の相違は日本語の「見る」、「会う」間の相違とは本質的に異なるものであり、「见到」においては「-到」が付加されることによって「見」の語彙的意味に変化が生じるわけではない。さらに、成戸 2007: 47 で述べたように、「看到」、「见到」、「見」という形式上の相違は、日本語の「見る」、「会う」とは異なつて二つの異なる動作を区別するための絶対的な手段とはなりきつておらず、話し言葉においては、「看到」、「见到」、「見」の順で「見る」動作を表わす働きが弱まっていくと同時に、「会う」動作を表わす働きが強まっていく。このように、日本語において「見る」、「会う」により別個の動作として表現される出来事は、中国語においては視覚動作を表わす「看到」、「见到」、「見」によって表わすことが可能な連続した一つの領域を形成しており、同様のことは「看」、「看见」についてもあてはまる。換言すれば、中国語において「見る」動作、「会う」動作を表わすのに用いられる視覚動作の諸成分が、意味の上ではいわば相対的な相違を有

するにとどまり、それらの相違は日本語の「見る／見かける」、「会う」間のそれとは本質的に異なるということである。このことは、日本語の「見る／見かける」、「会う」間には 2.1 で述べたように明確な形式上・意味上の相違が存在するのに対し、視覚動作を表わす中国語諸成分の場合には、同一の成分が「見る」、「会う」いずれの動作を表わすことも可能なケースや、他のいずれの形式と比較するかによって「見る」、「会う」いずれの動作を表わす傾向がより強いかが異なるケースがみられる点によつても明白である。

## 2.3 「(ヒト)ニ／ト会う」に対応する中国語の表現

2.2 で述べたように、「看」、「看到」および「见」、「见到」が「会う」動作を表わす場合、前二者は単方向的な「会う」を、後二者は双方向的な「会う」を表わすという使い分けがなされている。また、成戸 2004a: 307-308 で述べたように、「见到」が「会う」動作を表わす場合には、「见」という動作の実現段階に向けての時間的方向性が強まっていると同時に、「看到」や「見る」を表わす「见到」の場合に比べ、主体から客体に向けての視線の到達という空間的方向性が相対的に弱まっている(その分だけ非視覚動作としての性格が強まっていると考えられる)。但し、「见到」を用いた表現の中には、(25) ”’ のように「見る」、「会う」いずれの動作を前提とした表現に解することも可能なケースが存在する<sup>21)</sup>。成戸 2004a: 302-303 で述べたように、「见到」が「見る」動作を表わす場合には、「-到」の働きによって主体から客体への単方向性を帯びることとなるため、(25) ”’ が「会う」動作を前提として用いられる場合であっても、「见到」の客体に対する空間的方向性が皆無であるとまでは断定できない。また、「见」が「見る」動作を表わす場合には、1.2 で述べたように客体から主体への空間的単方向性を有する<sup>22)</sup>。このように「见」、「见到」は、「会う」という双方向動作を表わす働きを有する一方で、「見る」動作すなわち非双方向動作を表わす働きをも有するため、日本語の「会う」に比べると双方向動作を表わす成分としての性格は弱いということができよう。

一方、2.1 で述べたように、同じく「会う」を用いた形式であっても、「(ヒト)ニ会う」よりは「(ヒト)ト会う」の方が、動作の双方向性が際立っている。両形式の相違は、単方向的な「会う」と双方向的な「会う」を表現し分ける中国語の「看」、「看到」およ



び「見」、「见到」の場合とは異なる。「会う」動作を表わす「看」、「看到」は、客体への単方向性を有する点において、日本語の「(ヒト)ト会う」よりは「(ヒト)ニ会う」に近い性格を有するとみることも不可能ではないものの、「会う」は「看」、「看到」とは異なっていてそれ自身が双方向性を有する成分である。また、「見」、「见到」は双方向的な「会う」を表わすことが可能な成分であることから、「(ヒト)ニ会う」よりは「(ヒト)ト会う」に近い性格を有するとみることも不可能ではないものの、上記のように双方向動作を表わす成分としての性格が「会う」よりも弱い。さらに、「会う」が2.1で述べたように非視覚的側面を有する抽象性の高い動作であるのに対し、「看」、「看到」、「見」、「见到」はいずれも視覚動作としての性格を強くとどめている。

ところで、「会う」動作を表わす中国語の表現としては、これまでにあつかった視覚動作を表わす諸成分のほか、例えば

(26) 和朋友在咖啡店见面。

(《日汉双解 用法例解 日语近义词辨析》  
「会う、出会う」の項を一部修正)

における「和～见面」のようないわゆる前置詞とともに用いられるものが存在する。(26)においては、「会う」相手は「和」によっていわゆる共同行為者<sup>23)</sup>として表現されている。この点において、「見」、「见到」が「看」、「看到」の場合と同様に主体の動作について述べ、「会う」相手を客体とするのとは異なる。「見」、「见到」表現においては、客体は動作を伴って主体の対極に位置し、「見」、「见到」は、空間的には双方向動作でありながらも、心理的には主体から客体に向けての抽象的な方向性を有することとなる。このことは、例えば

(27) 我去见他了，可是没见到。

(28) 我一天一天地等，等到第六天才见到他了。

(项开喜 1997: 177)

のような表現をみれば容易に理解されよう。(27)においては、「他」への空間的方向性が「去」から読みとれるのはいうまでもないが、「見」、「见到」は「去」とともに「我」の動作となっており、「他」に向けての非空間的方向性すなわち心理的方向性がみてとれよう。また、(28)においては、「我」が「他」に会う

のを心待ちにしていたことが前件により明白であるため、「他」に対する「见到」の心理的方向性が、(27)の場合よりも一層明確にみてとれよう。このため動作の双方向性は、「会う」相手を共同行為者として表現する場合の方が、「見」、「见到」を用いた表現の場合よりも際立っているといえることができる。このことは、「見」、「见到」が日本語の「会う」に比べて双方向動作を表わす成分としての性格が弱いということとも矛盾しない。前置詞とともに用いられて「会う」を表わす動詞としては「见面」のほか、さらに「会面」が挙げられる<sup>24)</sup>。「见面」、「会面」という動作は、客観的事実としては視覚を用いて行なわれるものの、非視覚動作としての性格が強い。すなわち、これらの成分が表わす概念は、視覚動作を表わす諸成分の場合に比べると抽象性が高く、この点においても「見」、「见到」の場合に比べて日本語の「会う」により近い性格を有しているといえることができよう。また、動作の相手が前置詞により共同行為者として示されることから、日本語の「(ヒト)ニ会う」よりは「(ヒト)ト会う」に近い性格を有するとみてさしつかえないと考えられる<sup>25)</sup>。

### 3 まとめ

以上、日本語の「見る」と「読む」の使い分け、「見る／見かける」と「会う」の使い分けを、視覚動作を表わす中国語の諸成分間における使い分けと比較して、各成分の特徴および日中両言語間に対応関係が成立する要因についての考察を行なった。

日本語の「読む」、「会う」は、これらの前提となる客観的事実においては視覚による認知をとまなうものの、視覚動作を表わすことを中心的な役割とする成分ではない。「読む」は言語活動の一環としての理解行為であり、「会う」は相手との相互的接触・交流をとまなう動作であるというように、いずれも具体的な視覚動作にとどまらず、非視覚的側面をも有する抽象性の高い概念である点において、視覚動作を表わすにとどまる「見る／見かける」との間に一線を画している(1.1で挙げたような「理解する、判断する」という心理動作や「調べる」という抽象的行為を表わす「見る」の用法は、いわゆる派生義である)。これに対し中国語においては、「読む」動作、「会う」動作はいずれも視覚動作を表わす諸成分によって表わすことが可能であり、非視覚的側面を有するこれらの動作と純然たる視覚動作との間には、形式上の明確な相違がみられない。視覚動作を表わす

中国語の諸成分は、それぞれが有する特徴の一つ或いはいくつかが日本語の「見る／見かける」、「読む」、「会う」との間に共通点や相似点を有することによって対応関係を成立させることとなるものの、特定の形式が「見る／見かける」、「読む」、「会う」のいずれかに対応するというような一対一の対応関係を形成しているわけではない。

また、中国語においては視覚動作を表わす諸成分のほか、非視覚動作としての「読む」を表わす“念”、“读”や、非視覚動作としての性格がより強い「会う」を表わす“和～见面／会面”などが存在するというように、日本語の場合とは異なる形で「見る／見かける」、「読む」、「会う」のような動作を表わす諸成分が使い分けられている。

### 注

- 1) 「読む」の基本義については、国立国語研究所 1972: 646-649、『日本語 基本動詞用法辞典(「よむ」の項)』を参照。
- 2) 『外国人のための楽しい日本語辞典(「よむ」の項)』には、「読む」の対義語として「書く」、「話す」が挙げられている。
- 3) 森田 1977: 157 は、絵や図は音や意味概念を持たないから「絵を読む」とか「地図を読む」とは言わないが、それが意味するものを探り取るの意なら「読む」と言える、としている。「読む」が非文字媒体を客体とする点については、さらに『外国人のための楽しい日本語辞典(「よむ」の項)』、『日本語 基本動詞用法辞典(「よむ」の項)』を参照。
- 4) 「見る」のこのような派生義については森田 1989: 1094-1095、田中 1996: 124、『日本語 基本動詞用法辞典(「みる」の項)』、『広辞苑(「みる」の項)』などを参照。
- 5) 田中 1996: 123-124 には、「学生答案／レポートを見る」における「見る」は視覚による認知に基づき対象を理解・判断することを表わすケースの一つである旨の記述がみられる。『外国人のための 基本語用例辞典(「みる」の項)』は、「見る」によって表わされる動作である「読む」、「調べる」をそれぞれ一つの項目としてたてている。これに対し森田 1984: 206 は、「答案を見る」を「新聞を見る」と同様に「内容を理解し読みとる行為」と位置づけている。
- 6) 奥水 1980: 151 は、「念」は口語的な成分であり、“读”は“念”の同義語でありやややかたい感じがするものの、いずれも「声を出して読む」という意味で使われるのに対し、“看”は「目で見ると黙読する」の意味で使われるとしている。奥水はさらに、例えば“看报”は「新聞に目をとおす」ことを表わすのに対し、“读报”は“在车上给旅客读报。(車中で乗客に新聞を読んでやる。)”のような使い方が可能であるとしている。
- 7) ちなみに《日語 5000 基本詞典》は、「よむ」の項において“你看报吗? — 是的, 每天看。”に対し「新聞を**読み**ますか。 — はい、まいにち**読み**ます。」を対応させる一方、「みる」の項においては“每天清晨报纸一来, 我马上**就读报纸。**”に対し「私は毎朝新聞がくるとすぐ**見**ます。」を対応させている。同様に、《日語動詞用法詞典(「みる」の項)》にも“他每天早晨**读报。**／毎朝彼は新聞を**見**る。”のような対応例がみられる。これらの対応例からは、音読にとどまらず「読む」動作全般を表わすに至った“读”の用法と「見る」の派生的用法との接点がみてとれよう。
- 8) この点については成戸 2001: 174 を参照。(16)は、原典においては非文字媒体を客体とする内容の会話表現として用いられているが、単独では「見る」、「読む」いずれの動作を表わす表現として用いることも可能である。
- 9) 心理動作を表わす成分としての性格を帯びた“見”の働きについては、成戸 2004 a: 320-321 を参照。
- 10) 成戸 2006: 94-96 では、“看到”、“見”がいずれも視覚によってとらえた情景から状況を読みとることを表わす点について述べた。
- 11) 「ヲ」によって示される客体に向けての動作の単方向性については、奥田 1983 a: 22、成戸 2009 b: 105 を参照。また、本稿では「ニ／ト」で示される成分をいずれも「相手」とするが、寺村 1982: 88、95 は「ニ」で示されるものを「相手」、「ト」で示されるものを「片方」と呼んで区別している。
- 12) 但し国立国語研究所 1972: 442 は、偶然「あう」と、約束しておいて「あう」のいずれであるかははっきりきめにくい例、いずれであるかをせんさくすることが無意味な例があるとしている。
- 13) 「ゆくさきのむすびつき」、「くつつきのむすびつき」については、奥田 1983 b: 291-298 を参照。
- 14) 奥田 1983 b: 299 は、言語活動をしめす動詞が「ニ」格の名詞(ヒト)と組み合わせられると「はなし相手のむすびつき」ができるとしている。この組み合わせに用いられる動詞として同: 300 が挙げている動詞のうち、「はなす、かたる、しゃべる、あいさつする、電話する、相談する」は、「会う」と同様に「ニ」のみならず「ト」によって名詞(ヒト)と組み合わせられることも可能であり、その場合には主体と相手との双方向動作であることが一層明確となる。
- 15) 同様の記述は、久野 1973: 62、沈国威 1997: 52-53 にもみられる。相互行為の相手を示す「ト」の働きについては、さらに森田 1980: 328-329 を参照。
- 16) 「彼」に会うために「行く」ことを表わす表現としては、(21)' よりも(21)の方が自然である。この点については、久野 1973: 63 を参照。また、寺村 1982: 88、95-96 の見方によれば、(21)' が「彼と会うために行く」、「彼と一緒に(誰かに)会いに行く」のいずれを表わす表現として用いられるかによって、「彼ト」の述語に対する関係が異なることとなる。寺村の分類によれば、(21)' において「ト」により示される「彼」は、前者のコトガラを表わす場合には「片方」、後者のコトガラを表わす場合には「連れ」ということとなる。
- 17) 奥水 1980: 53 も、(24)' に対応する中国語表現としては(24)よりも“遇见过他”の方がいっそう適切であるとしている。また、成戸 2004b: 74 で述べたように、“看见”においては“看”と“见”が「過程＋結果」を表わすため、視線の方向もおおのずと客体に向けての単方向的なものとなる。“看见”に「会う」が対応するケースについては郭春貴 2001 にも記述があり、同: 366 は、“看见他”、“看到他”はい

ずれも「彼に会った」を表わすが、前者は「目的がなく、単に偶然に会った」を、後者は「彼に会う目的があって、会った」を表わすとしている。

- 18) 同様の例としては、“这个人好像在哪儿看到过。／この人はどこかで見かけたことがあるようだ。(『中国語文法用例辞典』“到”の項)”が挙げられる。
- 19) このことは、成戸 2004a: 305-306 で述べたように、“看”は主体のみの意志あるいは都合で一方的に「会う」ことを表わすのに対し、“見”は主体・客体双方の意志あるいは都合で「会う」ことを表わすという相違となつてあらわれる。“看”、“見”がともに「人に会う」を表わすという点については、奥水 1980: 53 を参照。
- 20) 成戸 2007: 45 で述べたように、ヒトを客体として「会う」動作を表わす場合には通常“见到”が用いられ、“看到”を用いると話し言葉的な表現としての性格が一層強くなる。
- 21) (25) ”’とは異なり、“見”を用いた“昨天我在车站见了小王。(郭春貴 2001: 317)”は、「王さんと話をした」という場面が想定される表現である。ちなみに、黄利恵子 2001: 168 には、日本語の「会う」は直接的接触にのみ用いられ、何かを媒介した接触には「見る」が用いられるのに対し、“見”はいずれの場合に用いることも可能である旨の記述がみられる。
- 22) 「見る」動作を表わす“見”は客体から主体に向けての空間的単方向性を有するため、“どこかで君を見たようだ。／好像在哪儿见过你。(《中级日语》: 67 を一部修正)”のような対応例がみられる一方で、郭春貴 2001: 317 には、注 21 で挙げた中国語の表現例に対して「きのう駅で王さんを見かけました。」は対応しない旨の記述がみられる。
- 23) “和(あるいは“跟”など)”によって示される「共同行為者」については中川 1997: 31-34 を参照。
- 24) (26) は原典では“会面”が用いられ、“见面”の場合よりも改まった感じが強い。
- 25) 《日汉双解 用法例解 日语近义词辨析(「会う、出会う」の項)》は、“和朋友在咖啡店会面。”に対して「友達ト喫茶店で会う。」という日本語表現を対応させている。中川 1997: 37 には、共同行為者を示す“和”、“跟”などが並列接続詞を兼ねる点についての指摘がみられ、“和／跟～见面／会面”と「ト会う」との近似性がみとれる。

### 参考文献

- 赤祖父哲二／川合康三／金文京／斎藤武生／ジョン・ボチャリ／林史典／半沢幹一編『日・中・英 言語文化事典』、マクミラン ランゲージハウス(2000)。
- 荒川清秀 1984. 「聞くは“听”だけではない」、『中国語』1984 年 11 月号、大修館書店、7 頁。
- 奥田靖雄 1983 a. 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」、言語学研究会編『日本語文法・連語論(資料編)』、むぎ書房、21-150 頁。
- 奥田靖雄 1983 b. 「に格の名詞と動詞とのくみあわせ」、言語学研究会編『日本語文法・連語論(資料編)』、むぎ書房、281-323 頁。

- 郭春貴 2001. 『誤用から学ぶ中国語—基礎から応用まで—』、白帝社。
- 金田一京助／見坊豪紀／金田一春彦／柴田武編『新明解国語辞典』、三省堂(3 版 1981)。
- 久野璋 1973. 『日本文法研究』、大修館書店(再版 1974)。
- 倉石武四郎『岩波 中国語辞典 簡体字版』、岩波書店(1990)。
- グループ・ジャマシイ編著《中文版 日本語句型辞典(『日本語文型辞典』中国語訳(簡体字版))》、くろしお出版(2001)。
- 小泉保・船城道雄・本田晶次・仁田義雄・塚本秀樹編『日本語 基本動詞用法辞典』、大修館書店(1989)。
- 黄利恵子 2001. 「現代中国語における“見”の多義構造と統語的特徴」、『多元文化』創刊号、名古屋大学国際言語文化研究科・国際多元文化専攻、161-173 頁。
- 国立国語研究所 1972. 『国立国語研究所報告 43 動詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版(3 版 1978)。
- 奥水優 1980. 『中国語基本語ノート』、大修館書店(5 版 1983)。
- 佐治圭三 1992. 『外国人が間違えやすい 日本語の表現の研究』、ひつじ書房。
- 新村出編『広辞苑』、岩波書店(5 版 1998)。
- 鷹野次長編『外国人のための楽しい日本語辞典』、三省堂(2004)。
- 田中聡子 1996. 「動詞『みる』の多義構造」、『言語研究』第 110 号、日本言語学会、120-141 頁。
- 沈国威 1997. 「相手格の『と』とその周辺」、大河内康憲教授退官記念論文集刊行会編『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』、東方書店、47-63 頁。
- 寺村秀夫 1982. 『日本語のシンタクスと意味 第 I 巻』、くろしお出版。
- 中川正之 1997. 「中国語、日本語、英語における共同行為者と道具をめぐる」、大河内康憲教授退官記念論文集刊行会編『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』、東方書店、29-46 頁。
- 成戸浩嗣 2001. 「感覚動詞に後置される『-到、-見』(その 2)」、『コミュニティ政策学部紀要』第 4 号、愛知学泉大学コミュニティ政策学部、153-174 頁。
- 成戸浩嗣 2004 a. 「『見』に後置される『-到』について」、『平井勝利教授退官記念 中国学・日本語学論文集』、白帝社、299-321 頁。
- 成戸浩嗣 2004 b. 「中国語の視覚動詞に見られる諸相—『見』、『看到』、『看见』を対象として—」、『コミュニティ政策学部紀要』第 7 号、愛知学泉大学コミュニティ政策学部、67-85 頁。
- 成戸浩嗣 2005. 「『看到』、『见到』の使い分け」、『コミュニティ政策学部紀要』第 8 号、愛知学泉大学コミュニティ政策学部、59-73 頁。
- 成戸浩嗣 2006. 「『看到』、『见到』の使い分け(その 2)」、『コミュニティ政策学部紀要』第 9 号、愛知学泉大学コミュニティ政策学部、87-99 頁。
- 成戸浩嗣 2007. 「『看到+ヒト』と『见到+ヒト』」、『コミュニティ政策研究』第 9 号、愛知学泉大学コミュニティ政策研究所、41-54 頁。
- 成戸浩嗣 2009 a. 「視覚動作を表わす表現の日中対照—『見つける／見つかる』、『見かける』に対応する中国語の表現—」、『コミュニティ政策学部紀要』第 12 号、愛知学泉大学コミュニティ政策学部、59-79 頁。

成戸浩嗣 2009 b. 『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』,  
好文出版。

文化庁『外国人のための 基本語用例辞典』(2版 1975)。

森田良行 1977. 『基礎日本語』, 角川書店(12版 1987)。

森田良行 1980. 『基礎日本語 2』, 角川書店(3版 1987)。

森田良行 1984. 『基礎日本語 3』, 角川書店。

森田良行 1989. 『基礎日本語辞典』, 角川書店(10版 2005)。

呂叔湘主編／牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典—  
《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』, 東方書店(改訂版  
2003)。

高宁編著/孙莲贵审校《日汉互译教程》, 南开大学出版社  
(1995)。

顾明耀主编《日语动词用法词典》, 商务印书馆(2002)。

李进守主编《日语 5000 基本词词典》, 上海外语教育出版社  
(1988)。

苏琦编著《日语口译教程(修订本)》, 商务印书馆(第2版  
2000)。

吴云珠・关薇・胡欣・张录贤编著/三浦直樹审定《日汉双解 用  
法例解 日语近义词辨析》, 大连理工大学出版社(2003)。

项开喜 1997. <与“V到NP”格式相关的句法语义问题>,  
南开大学中文系《语言研究论丛》编委会编《语言研究论丛  
(第七辑)》, 语文出版社, 156-180 页。

肖辉・高克勤主编 1997. 《中级日语》, 武汉大学出版社。

### 用例出典

平井勝利 1985. 『中国語 中級コース』, 白帝社。

陈国安<恍惚的人们>, 《青年文学》编辑部编《青年佳作(一  
九八六年选本)》, 中国青年出版社(1988)。

谌容<人到中年>, 钱谷融・吴宏聪主编《中国现代文学作品  
选读・下册(当代部分)》, 华东师范大学出版社(1987)。

(原稿受理年月日 2012 年 8 月 10 日)